

スポーツ科学研究, 7, 125-126, 2010 年

上海体育学院に参加して体験したこと

Experience at academic exchange program in Shanghai University of Sport

庄子博人

Hiroto Shoji

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科

Graduate School of Sport Sciences, Waseda University

スポーツ科学研究, 7, 125-126, 2010年, 受付日: 2010年12月27日, 受理日: 2010年12月27日

早稲田大学グローバル COE プログラム”アクティヴ・ライフを創出するスポーツ科学”事業の一環として、2010 年 11 月 5 日から 8 日まで中国の上海体育学院(SUS)を訪れ学術交流に参加した。今回の学術交流の主要な目的は、上海体育学院の研究施設、運動施設見学および大学院生との交流および、4th Shanghai International Forum on Exercise and Health への参加による研究成果のプレゼンテーションだった。

上海体育学院は、1952 年に創設された歴史ある体育単科大学であり、上海の東北に位置している。上海体育学院の修士課程の大学院生に施設見学および研究室についての紹介を受けた。運動施設は、広大な敷地にテニスコート、陸上競技場、室内陸上競技場、サッカー場、武道場、体育館などを有し、中国武術博物館という中国における武道の歴史の変遷を展示している施設もあり、スポーツのトレーニング環境は非常に充実していた。研究施設は、各研究分野で建物が分かれており、訪問させていただいたのはバイオメカニクス系の研究室であった。私自身の専門分野は社会科学であるため詳細は分らなかったが、一緒に行ったバイオメカニクス専門の早稲田大学院生の話では、実験器具や施設の規模など非常に最先端で充実しているとのことだった。今回の訪問では医学系がメインであったため研究室訪問はできなかったが、体育人文学院(School of

Sports and Humanities)、経済管理学院(School of Economics and management)という研究棟の建物も見られ、人文・社会科学系の研究も盛んに行われているとのことであった。

4th Shanghai International Forum on Exercise and Health では、11 月 6 日に Opening Ceremony と Keynote Speeches が行われ、高齢者の介護予防やがん予防などヘルスプロモーション分野およびスポーツの怪我予防に関する研究等がレクチャーされた。特に印象に残っているのは、Dr.Thomas Root の The Correlation between the Use of Sensory Distraction to Enable Sports and Fitness Skills Repetition and Accelerating Learning and Fighting the Childhood Obesity Epidemic という発表である。これは、HOPSports,Inc.が子供や若者に向けて、健康増進やトレーニングスキル向上を目的として、映像を見ながら楽しく気軽にできるトレーニング(教育)プログラムを提供する事業内容についてのレクチャーであった。一般的な研究者としての学術論文や学会発表だけではなく、実際に人の身体活動を増加させるためにプログラムを開発し、それを事業化して世界中に配信しているという発想と行動力に感銘を受けた。

11 月 7 日には、Sino-Japan Postgraduates Forum というセッションで上海体育学院の大学院生 5 名と早稲田大学院生 5 名によるプレゼンテー

ションがあった。私の順番は、大学院生の4番目で、Jリーグシーズンチケット購買者のクラブの商圏の競合に関する内容を発表した。英語によるプレゼンテーションが初めての経験であり、このフォーラムではスポーツ医学系の研究者がほとんどであったことから、ゆっくり正確に話し、研究分野を異にする人達に研究内容が伝わるように心がけた。この学術交流に参加する機会をいただき、学生のうちに他分野の研究者だけの場で発表する経験をできたことは、非常に貴重であると思った。また、私の発表に対して的確な質問もいただけたことから、研究内容をきちんと伝えることができたのではないか、と思う。しかし、課題としては、他の人の研究発表に関して、特にスポーツ医科学系の難解な専門用語が頻繁に登場する研究内容だとほとんど理解できなかったことである。分野の違いは大きいですが、研究の概要やエッセンスを捉えることは、英語のリスニング力をこれから鍛えることで補っていききたいと強く思った。

また、一緒に行った早稲田大学博士後期課程のメンバーとの交流、アテンドしていただいた上海

体育学院の大学院生との交流、そして普段は接点を持つことのない先生方、研究者との交流が何よりも貴重な経験であった。例えば、オーバートレーニングになるから発表練習はほどほどにして早く寝た方がいい、というジョークに接することができたのは、日頃から社会科学に身を置く者としては、極めて新鮮な概念を教わることができた貴重な体験であった。また、上海体育学院の大学院生の本当に親切にいただいたことは、大変嬉しく、同年代の方々との交流をすることで、より内容のある学術交流になったと思う。

最後になりましたが、学術交流プログラムに参加する機会を与えていただいた早稲田大学スポーツ科学学術院のグローバル COE プログラムの先生方に感謝致します。また、学術交流プログラムの企画および運営に尽力していただいたスポーツ科学研究科・研究院助教の曹振波先生をはじめ、上海体育学院にてお世話になりました皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。